

少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

<http://www.a-shorenkyo.jp>

〒 120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所
青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275

発行人 山本 輝夫

編集 調査広報部

鈴木(春) 大関 川田 小澤

田中 小野田 市川 高橋

川下 山岸 辻村 南部 岩井



力を合わせて頑張りました
足立区
青少年課長 渡邊 勇

日頃より、少年団体連合協議会の皆様には、子どもたちの健全育成のためにご尽力をいただきありがとうございます。

私はこれまでの区役所勤務の中で、子ども会やスポーツ少年団と直接関わる仕事は殆どありませんでした。しかし、今回、青少年課長になり、このように子どもたちのために一生懸命な大人たち、地域の方が大勢いらっしゃることに、大変感銘を受けました。皆さん、自分の子どものように地域の子どもたちを大切に思い活動しています。私は、なんとしても、皆さんの活動を支え、ともに子どもたちの健やかな成長に力を尽くしたいと思っています。どうぞよろしく願います。



夏休みの体験
足立区
少年団体連合協議会会長 山本 輝夫

子どもにとって夏休みは未知への遭遇である。宿題は苦手だったが沢山のことを学んだ。夏休みの様々な貴重な体験は今の僕にも生きている。自由に遊んだ仲間が特に懐かしい。五年・六年生の臨海学校、林間学校も鮮明に覚えている。身近に尊敬する人がいたことは実に幸せだった。

さて、本年度はジュニアリーダー研修会のハードルを上げ、三日間の研修が必修となった。修了者はキャンプの参加意識が強く、まさに子どもの学ぶ意識が動機付けとなり、いい結果を生んだ。可能性を広げる体験学習は自らの大きな力になる。子どもが主体性を育み、挑戦したことは意義深い。無限な可能性を引き出すことは容易ではないが、体験を通じて成長する姿は実に頼もしい。子どもの成長に携われる喜びと遣り甲斐を感じる瞬間だ。

「やればできる」を噛みしめ、更に可能性を広げてほしい。自らの意思と挑戦する主体性。相手を理解し、心を通わせる度量。真のリーダーに巡り合ってほしい。

未来の子どもを育む一年

足立区少年団体連合協議会・定期総会

平成三十年五月十九日(土)、
足立区勤労福祉会館(ブルミエ)
にて足立区少年団体連合協議会総
会が開催されました。

鈴木健治副会長の司会で始まり、
開会の言葉が大林英夫副会長、来
賓紹介を小野田みよ子書記が行い、
山本輝夫会長挨拶と進みました。
総会議長に川下勝利常任理事、書
記に小野田みよ子、田中加代が選
出され各議案が承認されました。



▲山本輝夫会長のあいさつ



▲総会の様子

【新年度協議会役員】

会長…山本輝夫

副会長…鈴木健治、大林英夫

鈴木春男、四宮淳司

会計…日高佐和子、下島泰則

清水康弘、足立義之



▲金田正区議会議長のあいさつ



▲定野司教育長のあいさつ

書記…小野田みよ子、田中加代
市川元一
総務部長…林 俊二



▲万歳三唱

調査広報部長…大関英広
事業研修部長…多島三好
育成部長…鹿浜安弘
会計監事…山崎金壽、岩澤明美

【退任常任理事】
第八 森田誠次
第九 寺島俊行
溯江 小山純一

【新任常任理事】
第八 飯塚信夫
第九 遊馬正子
溯江 五十嵐涉

退任されました常任理事の方々
には、これまでのご支援、ご協力
に御礼申し上げますとともに、今
後も青少年健全育成に対し、少連
協活動に変わらぬご支援を賜りま
すようお願いいたします。

【新年度活動方針】

「地域の特色を強みに変えて」をテーマにそれぞれの潜在的活力を発揮し「地少協の伝統・育成会の知恵・子ども会の行動力」を再認識する。

【懇親会】

林俊二総務部長の司会によりスタートし、定野司教育長の軽快なご挨拶をいただき乾杯と進み歓談に入りました。

多くの育成者が楽しそうに会話をし親睦を深めました。明日からの健全育成に取り組んでいく活力となりました。

(副会長 鈴木健治)



▲青い山脈の合唱

新会長となつて

第九地少協

会長 遊馬正子

平成三十年度の総会において、第九地区少年団体協議会会長に就任することになりました。微力ではございますが、第九地少協を躍進させるべく運営にあたっております。

子どもたちのためにどんな体験をさせてあげられるか、大人と触れ合う場にするにはということを中心に考え、子どもたちが感動するような機会をひとつでも多く作っていただきたいと思います。

子どもたちにとっても、大人たちにとっても良い仲間づくり・思い出づくりになるよう、自分も楽しみながら元気に活動してまいります。今後皆様にはご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。



育成会は子育ての主役

溯江地少協

前会長 小山純一

溯江地少協会長としての任期は短い間でしたが、少連協傘下の皆様の各地少協でのさまざまな活動が大変勉強になりました。当初は青少年委員として関わってまいりましたが、更に地域や地域の子どもたちに一歩踏み込んだ活動であると感じました。

昨今の少子化の中で子ども会運営も困難な状況という現実を、各地少協で同じ課題を抱えて苦労されていることなど、意見交換する中で参考になることが多々ありました。

子どもは地域の宝であり、地域で育ちます。そしてその育成会は地域を巻き込んだ地域ぐるみの「子育ての主役」です。各育成会（子ども会）で抱えている課題などを、地域の仲間の和（輪）を広げ文字通り「子育て仲間づくり」で交流を深め、活動への理解・参加を作ることが大切だと感じます。いまの子どもへの痛ましい事件が

後を絶ちません。地域の子どもたちを守るという観点からも、育成会（子ども会）は必要不可欠な存在であると確信いたします。

結びに、溯江地少協はもとより少連協事務局・役員の皆様、各地少協の皆様には大変お世話になりました。今後とも足立区の子どもたちのために活躍されますことをご祈念申し上げます。



▶JL宿泊キャンプ・事前研修会「スパゲッティタワーより高く！」

平成三十年度

子ども会育成者セミナー

七月一日(日)



▲育成者セミナー(村上講師)の様子

早すぎる梅雨明け宣言が出た、初めての日曜日、庁舎ホールにおいて、子ども会育成者セミナーが行われました。

セミナー開始に先立ちまして、多島事業研修部長より「どこの子ども会におきましても、子ども会員の減少、役員の成り手がいない等の共通したお悩みがあると思います。本日のセミナーで学んだことを今後の子ども会活動に活かしていただきたいと思えます。」とのお挨拶がありました。続いて少連協山本会長からは、「少連協は、育成者の皆様と共に力を合わせて、様々なイベントを通して、子どもたちの健全育成を行う組織です。これからも皆様と共に足立

区の子どもたちへ、アウトリーチ(手を差しのべる)をしてまいりたいと思います。」とお話しされました。

さらに青少年課の渡邊課長からは「貧困家庭の子どもの学力が総じて低いと言われていますが、そうしたご家庭でも保護者の働きかけによって、規則正しい生活を送る子どもの学力は高い傾向にあるという調査結果も出ています。足立区では、子どもたちに様々な体験をさせることに力を入れていきます。地域の中で子どもたちの見守りにご協力くださる方々、第三者の大人の皆様に感謝申し上げます。」とのお言葉をいただきました。

当日のセミナーのテーマは、「子ども会って、なに? (現在の子ども達、未来の子ども達)」です。足立区青少年課の村上係長をお招きして、講演とグループディスカッションを行いました。

講演の冒頭に村上係長から「私

役員の成り手がいない等、今と同じような悩みを多くの子ども会が抱えています。本日のセミナーの中で子ども会の役割の定義や子ども会として何をすれば良いのかを、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。」と話され、セミナーが始まりました。

今回のセミナーでは、いくつかのテーマごとに問題提起をして、テーブルごとでディスカッションし、「子ども会は、子どもが成長する上で必要な、地域の人間関係を育む場」「子ども会は、子どもが将来を生き抜くうえで必要な力を育む場」という、多くの意見が出されました。

今回、参加者の四割ほどが育成者経験五年未満の方々でしたが、講演がとてわかり易く、ディスカッションを通して、大変有意義



▲グループディスカッション

なセミナーとなり、大盛況の内に閉会となりました。

企画運営に携わった全ての皆様
に感謝いたします。

(事業研修部 足立義之)

ジュニアリーダー概要 ジュニアリーダーを 育てる

足立区は、青少年教育を様々な組織及び機会を活かし推進している。そのうちの一つが子ども会活動の支援であり、子どもたちに異年齢集団で活動することの重要さや体験から学ぶことを知ってもらい、子どもたちが健やかに成長できるよう努めている。同様に子どもたちが学校や地域社会などで自ら課題を見つけ、仲間とともに、その課題を解決する力を持ち、年少者には良き話し相手となるジュニアリーダーを育成支援している。

足立区少年団体連合協議会では、子ども会活動の充実をはじめ、地域社会における子どもたちの健全育成事業に取り組んでいる。さらに、足立区からジュニアリーダー研修会の実施運営を委託されており、今年度は、四月十四日から六月三十日までの間、区内小学校二十一会場で開催し、のべ五六〇人



▲新聞紙ドーム

ジュニアリーダー研修会を受講すると、仲間と協力することや、身近な物を使った遊び方を身につけることができます。是非たくさん子どもたちに受講してもらいたいのですが、なかなか受講者が増えないのが、毎年の課題です。

いかに受講者を増やすか？

(調査広報部長 大関英広)

の小学生が受講した。この研修会は小学校四年生から六年生までが対象となっているが、受講者は学校の仲間とは違う中で、明るく元気よく話し合いやゲームなどに取り組み、ジュニアリーダーへの歩みを進めていた。なお、三日間受講し、修了した五、六年生はジュニアリーダー宿泊キャンプにも参加できるシステムとなっている。

「どうすればいいのか？」を役員一同で考えて、昨年度より、区役所からのお知らせ以外に第六地少協オリジナルのお知らせを作成し、配布することにしました。若干増加はしましたが、まだまだ十人に満たない状態でした。

そして、今年度はさらに、子どもが親にプリントを渡していない事実を踏まえ、保護者会でも担任の先生からお勧めをしてもらい、親対象に配布してもらいました。その効果があったのか、二十一人の受講となり、受講修了五、六年対象の夏のキャンプにも八人の参加がありました。

一度、受講した子どもたちからは、「楽しかったあ！ また、来年も来るね」と声がよせられています。ジュニアリーダー育成の思いをこめて、今後も『とりあえず一度、受講してみませんか？』と、粘り強く広報していきます！

(第六地少協 副会長 川田和美)

育成会入門講座を終えて

平成三十年六月二日(土)に、毎年お借りしている大谷田小学校

ランチルームにて、今年度は参加者二十名と少なめでしたが、中身が濃く意義のある講演会を開くことができました。

今年度は、少連協の鈴木春男副会長を外部講師としてお招きし、第一部にて全体的な「育成会」

「地少協」「子ども会」などについてお話しがあり、第二部では、地元地少協の今までの経緯・現在の立場や現状などの他、他団体との違い・連携の必要性などについて言葉・単語の整理も兼ねて説明させていただきました。

中川地少協では、この講座にはできるだけ初めて育成会に関わる方、従事される方の参加をお願いしているのですが、新しい参加者の皆さんとなっています。その皆さんが、現在所属している育成会で、これから活動していく前の話として分かり易くを基本に地元講師としてお話しさせていただいたつもりです。

そして、入門講座を受講された皆さんが更に「育成者セミナー」にも参加して、これからの育成会・子ども会活動に自信を持って取り組んでいただきたいと思います。また、「やってみて楽しかった」と思える活動であって欲しい

と願っております

(中川地少協副会長 下島利代)

育成会入門講座

栗島地少協で開催する「育成会入門講座」は、栗島小学校PTA・栗島中学校PTA役員の皆様にも声掛けを行っております。

どちらも保護者・子どもの参加が不可欠だと考えているからです。同じ地域で活動する中、「参加してみようかな？」と思えるような行事・事業について意見交換をし、各子ども会の参加状況などの情報交換をいたしております。本来の「育成会」、子どもたちの参画のお手伝いまで時間はまだ、かかりそうです。

(栗島地少協会長 大庫利之)



▲関所ジャンケンに夢中

「新しいステージへ」 JL 宿泊キャンプ

本年度のジュニアリーダー研修会は通年の研修会より研修生に対し次の二つの新しい取り組みに挑戦でもらいました。

- ① 研修会修了を皆勤者のみに与えました。
- ② 研修生全員で事前研修会を行いました。



▲テント完成！

当初の見込みでは、キャンプ参加希望者が前年度より減少するのではと思われましたが、予想に反し、なんと五割増しの一四七名もの申込みがありました。キャンプ参加条件を上げたにも関わらず、参加者が増えましたが、抽選せず、申込者全員参加でキャンプを実施することに決定しました。

実際一四七名の研修生の前に立った瞬間、一・五倍に増えたことを痛感し、同時に、絶対に参加者



▲カレーライス
おいしくできたかな？

全員が無事に足立区に帰ると心に誓いました。

四日間のキャンプのプログラムは足立ジュニアリーダークラブ所属の高校生が中心となり、準備をします。実際に自分たちが研修生だった頃を思い出しながら考えたのでしよう。

結果も大切ですが、キャンプまでの経過が、今いるジュニアリーダーたちの宝物になると信じておられます。

今回、初めての挑戦がたくさんありました。まず参加人数。我々スタッフ入れると総勢二〇二名。何をするにも去年より時間が一・五倍になります。また今年の



▲いただきます！

猛暑で標高七五〇mで三十度を超えることのないキャンプ場が何と三十二度。湿度も八十五%以上。準備していたプログラムも変更しなくてはいけないほどでした。そんな厳しい環境のなかでも一四七名の研修生が汗水垂らしながら、一生懸命協力してテントを張ったり、野外炊事をしている姿、班で話し合い課題をこなしている姿等を見ることが私たちのこの活動のエネルギーになります。

次年度は今年の教訓を生かし、新たな野外宿泊研修会を準備していきたいと考えております。

(育成部部长 鹿浜安弘)

最終日	
時間	プログラム
6:30	起床
7:00	朝の集い (荷物を持って) テント撤収、備品改修
8:45	朝食 (カートンドック)
10:00	フィールド、文化祭 撤収
12:30	昼食
13:30	退所式
14:00	国立中央青少年交流の家 発
16:30	島根小学校着



▲かまどを使って夕食作り

御殿場キャンプ
8月2日～5日

2日目	
時間	プログラム
6:30	起床
7:00	朝の集い 朝食 (煮込みうどん)
9:30	ウォークラリー
12:00	昼食 (防災食) お楽しみプログラム、縁日 準備
13:00	御殿場縁日
16:00	シャワー
20:00	係会議・班会議 就寝準備・就寝

初 日	
時間	プログラム
7:30	島根小学校集合 出発式
12:00	国立中央青少年交流の家 着 入所式 昼食
13:00	テント講習・設営 かまど講習
16:00	夕食作り (カレーライス)
18:00	レクリエーション シャワー
21:00	係会議・班会議 就寝準備・就寝



▲ウォーター・シューティングを
楽しむ子どもたち

3日目	
時間	プログラム
6:30	起床
7:00	朝の集い 朝食 (菓子パン)
9:00	選択プログラム 昼食
12:30	工作、フィールドワーク
16:00	夕食
17:00	キャンプファイヤー シャワー
21:30	係会議・班会議 就寝準備・就寝



▲大きな荷物と期待を胸に!

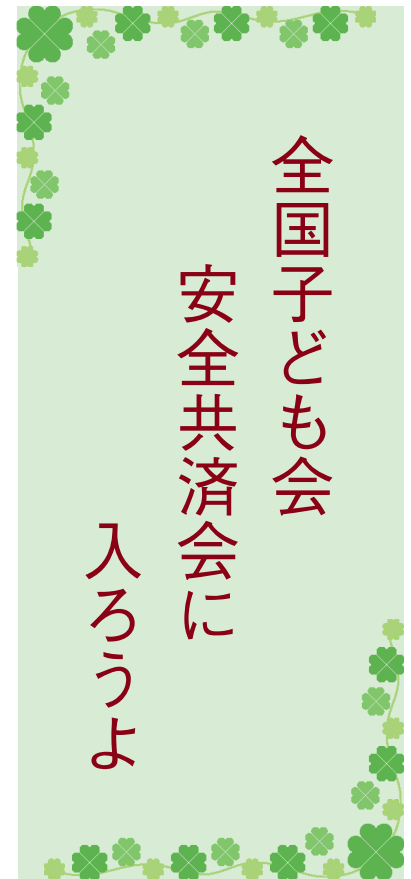


▲文化祭 “班ごとの発表会”



▲初めてのテント設営





全国子ども会 安全共済会に 入ろうよ

地域での子ども会活動や青少年団体の事業活動に最適な共済制度によって、皆さんの活動をサポートしています。これは「小さな掛け金で大きな安心」の考えの下で東京都子ども会連合会が窓口となっており、子ども及び大人の年会費は一人一五〇円（十月一日以降一四〇円）の掛け金で運営されています。

補償内容は、医療共済金（限度額五〇万円）、後遺障害共済金（限度額六〇〇万円）、死亡共済金（六〇〇万円）となっており、賠償責任保険も含まれていますが、詳細については「全子連」のHPをご覧ください。

昨年度三件、今年度（七月末まで）二件の事故報告がありますが、加入人数は昨年と比べ現時点で約

六〇〇名減の状況で共済会全体としても減少の傾向にあるそうです。少連協では、「万一のための保険」として、毎年度、共済会への加入を促進しております。

共済会については私ども会計が事務を取り扱っておりますが、①各育成会の共済会担当者から郵送されてくる「加入申込書」・「年間行事計画書」のチェックをします。

②申込時に年間行事計画の日程が確定していない場合には、後日、追加・変更として記入していただきます。

③申請用紙下部にある日常定例活動欄は、別途、指定用紙の添付となります。以上をチェックして都子連に郵送、掛け金を振り込みます。

私は担当して三年目になります。が、問い合わせの内容から、各育

成会の担当の皆さんが子どもたちや子ども会と真摯に、そして一生懸命に接していらつしやるということを常々感じており、とても素晴らしいことだと思っております。

各育成会の皆さまには、ぜひとも「全国子ども会安全共済会」への加入をおすすめし、ご活用されるようお願いいたします。

（会計 下島泰則）

少連協の行事（平成 30 年度後期）

10月6～7日	足立まつりAフェスタ
10月28日	東京都子ども会育成研究協議会（葛飾区シンフォニーホール）
11月18日	研修旅行（群馬県川場村）
12月23～24日	スキルアップキャンプ（あすなろの里）
1月11日	新年会
2月11日	第11回ドッチビー大会（足立区総合スポーツセンター）
2月23～24日	全国子ども会中央会議研究大会（金沢市）

編集後記

三十五度越えの夏も終わり、秋の気配が感じられる季節となりました。

皆さんは、この夏は、いかがでしたか？

それぞれ子どもも大人も、たくさんのお出を出を作れた夏休みだったでしょうか？

六十二号は、キャンプの記事がメインとなっております。子どもたちの楽しそうな、また、真剣な表情の写真を見ていただければと思います。

